



YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第3号 令和3年3月12日発行

第3回学校運営協議会 開催

先月24日（水）、本校で第3回学校運営協議会が開催されました。今回は学校運営協議会委員だけでなく、委員の関係者10名にも参加していただき、本校職員を合わせ計30名で熟議を行いました。生涯学習センター職員のコーディネートの下、意見を深めることができました。熟議は1グループ5人ほど、計6つのグループで行われました。話し合いを深め、意見を共有するため3回グループのメンバーを変えて話し合いをしました。そして、この日、心に残った一言を付箋に記入し、会を終えました。委員や地域の関係者、PTA会長とゆり支援学校の子どもたちを地域全体で育てるための考えを共有し、おかげさまで有意義な機会となりました。

協議テーマ 「ゆり支援学校の子どもたちを地域全体で育てるには？」

1 熟議の様子と内容

(1) 各グループ協議で印象に残った意見

- ①ゆり支援学校の行事に招待されるのではなく、一緒に企画実施する。コロナ禍で難しいが、できたらよい。障害をオープンにできるとよい。(由利本荘地域支援センター所長 佐々木薫さん)
- ②障害のある方が招待される立場ではなく、自分たちが招待する、または教える側に立ち、一般の方と交流する機会をもてるとよい。(由利本荘市福祉支援課総務班課長補佐兼班長 佐藤夏樹さん)
- ③障害のある方々の活躍を情報発信して、地域に広く知ってもらいたい。(由利本荘市教育委員会指導主事 佐々木紀子さん、由利本荘青年会議所理事長 鈴木賢幸さん)
- ④地域に出ることが、地域とのつながりをつくる。健康な体づくり、そのための食事づくりが大事。畑の作物を作ること、自身の健康・体を支える。家庭でも工夫してほしい。他に利用者は除雪活動なども実施した。自己有用感を感じ、社会に役立つ経験をしている。長期休みになると家庭に閉じこもったままの方が多いと聞く。自身の健康増進や社会貢献に参画してほしい。(くるみの里管理者 沼倉只輔さん)
- ⑤障害者雇用した事業所の交流の場を考え、職場の支援の仕方や環境整備などの情報交換してはどうか。(本荘公共職業安定所所長 丹 悟さん)
- ⑥理解＝困り感をとらえ、支援する。その方の困り感をとらえたい。(由利本荘市健康福祉部子育て支援課長 遠藤千代子さん)
- ⑦足でしっかり立つ。地に足をつけて生活を。手→周囲の支援、社会のサポート、目→情報提供。(にかほ市教育委員会 教育研究所 指導主事 増田良さん)
- ⑧自己理解と周囲の理解が大事。数年前から由利本荘市の成人式に参加させてもらい、地域で生活していることが実感できた。(前PTA会長 学校後援会副会長 古池正子さん)
- ⑨継続することが大事。(障害者の行事に手助けをする助っ人隊会長 金子 文子さん)

- ⑩小学校、中学校からゆり支援学校に転入学した児童生徒は、今でも小さいころから一緒だった友達との交流がある。由利本荘市の成人式に参加したい。(ゆり支援学校PTA会長 佐藤 徹さん)
- ⑪雇用先の障害理解が必要である。お互いを理解し、働きやすい職場に。ゆり支援学校の皆さんが、どんなところで働けるのか情報を集めていきたいと思う。(本荘公共職業安定所 所長 丹 悟さん)

(2) 各グループ協議の付箋より抜粋

○1 グループ

- ・障害者受容の推進 (SNSで発信)
- ・地域との交流 (地域の人に行事のサポートをしてもらう)
- ・作業製品のアピール、発信方法の工夫、共同で販売する。
- ・地域を生かした活動や地域の人とのかかわり (休業中の余暇)
- ・活動を見える化する。

○2 グループ

- ・地域住民の障害への理解、障害者を支える地域
- ・地域の学校交流、共同で活動する場
- ・祭り、成人式、できることからスタート

○3 グループ

- ・見る、知る、正しく理解する。
- ・相互に支え合う (地域の人と一緒に活動) →理解促進
- ・自分が役に立つ存在ということを実感してほしい。
- ・障害のある方の自己理解
- ・誠実なことも、一生懸命なことも周りを明るい気持ちにすることも→理解へつながる。



○4 グループ

- ・就学前、在学中、卒業後の支援 (子ども、親)
- ・地域行事への参加 (菖蒲祭り)、学校間交流 (体験、知る)
- ・福祉サービス、障害者の生涯学習への参加、社会生活支援 (食育、スマホ教室)
- ・支える人が変わる、障害者サポーターの活用を。

○5 グループ

- ・「足」をつくる手助けをする (自立)、「手」となる (支援)。
- ・共生 (共に学ぶ)、交流、社会参加の機会
- ・住民との相互作用 (知る)
- ・健康な身体づくりのための食生活改善

○6 グループ

- ・学校と地域の双方向の関係
- ・学校の活動PRの連続性
- ・居住地交流の保護者へのアナウンス
- ・障害者理解
- ・交流の場 (事業所交流、地域貢献活動、スポーツ交流)





2 今回の熟議で心に残った一言

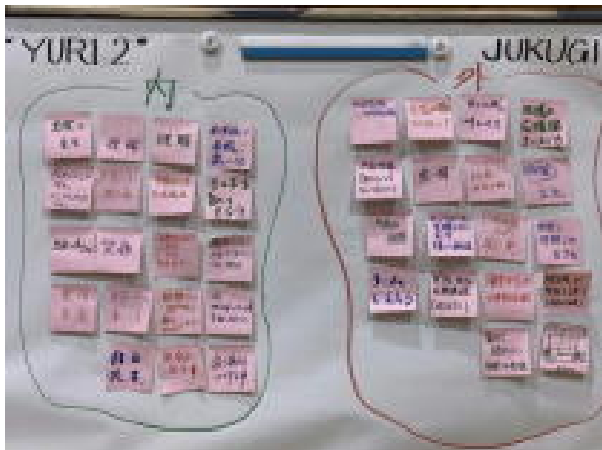
参加者の皆さんから、熟議を終えて印象に残っている言葉を付箋に書いていただきました。たくさん話し合われた中で、最も心に残った言葉を各委員や地域の方々に持ち帰っていただき、各職場・地域で何か障害者（児）理解のためにできるかを考え、取り組んでほしいと思います。生涯学習センター学習事業班主幹（兼）班長の皆川先生から「印象に残った言葉を付箋に書いてもらったが、大きく内と外に分類した。自分が受け止めてやっっていこうとするものを内、外を巻き込んでやるべきことを考えたことを外とした。「協働」とは、それぞれの立場でそれぞれの責任の元で今から出来ることをやること。そのことが子どもの未来を育てる。子どもが変わると地域も変わる」とのお話をいただきました。

内

- ・ 実際に見る
- ・ パイプになる
- ・ お手伝い、余暇、楽しいこと
- ・ 学校のことももっと知る（２）
- ・ お互いに知る、その子を知ってもらう
- ・ 活動を知りに行く、そして伝える
- ・ 興味のない人を引きずりこむ努力
- ・ 発信・交流
- ・ 話題づくり
- ・ 自ら動き続ける事
- ・ 理解（２）

外

- ・ 住民交流との相互理解
- ・ 交流の場をつくりたい（２）
- ・ 事業所交流
- ・ 地域の応援団を一人でも
- ・ チームで支える
- ・ 共通理解（知ろうとする心をもつこと）（２）
- ・ つなぎ続ける支援（地域の輪）
- ・ 共通の話題
- ・ 一人ひとりの笑顔を引き出す障害者支援
- ・ 地域が学校を誘う（企画は地域）
- ・ 肩肘張らない自然な交流



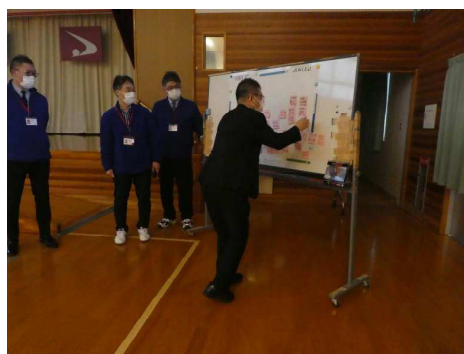
3 学校運営協議会委員の年度末アンケートより

(1) 学校運営協議会の活動内容について

- ・地域で連携をより深めていくには、企業との関わりも重要であると考えられることから、学校運営協議会の委員に経済団体である由利本荘市商工会及びにかほ市商工会も含めたらよいのではないかと感じた。
- ・児童生徒さん方の活動に同行して、一緒に体験できる機会があってもよいのではないかと。
- ・構成員に、にかほ市役所の子育て支援課の方もいた方が、よいのではないかと。

(2) 熟議について

- ・多くの委員の皆様と気軽に意見交換や情報交換を行うことができ、大変有意義であった。また、そういう意味では熟議を1回目の協議会で行った方が、各委員会との関係構築が図られ、その後の活動における学校としての連携等においても、より効果的に進めやすくなるのではないかと感じた。
- ・今年度は、年度まとめとせず、次年度へ繋げることとなったことは、むしろ良かったのではないかと。参加者は替わってもそれまでの話し合いの振り返りがあったり、新しい参加者の意見も加わったりして繋がって行ける方が良いと思った。
- ・皆さんのお話を聞いて、「想い」は一緒と思った。あとはどのように行動につなげるか、できることから頑張りたい。



(3) その他

- ・学校運営協議会を通じて学校の様子がよく分かった。
- ・今年度は、子ども読書会議もボランティア部と研修部が合同で、人数なども少なくしての研修となった。来年度もコロナ対策を考えながら活動していくことになるだろうと思う。読み聞かせなどもたくさんの方に広めていけたら良いと思うし、障害のある子どもたちにもたくさん触れてほしいことだと思っている。
- ・学校における教育活動についてより理解が深まり、学校との連携を深め、今後の業務運営に役立てたいと思った。
- ・以前別な立場でより支援学校の皆さんにお世話になった。このような形でまた関わらせていただけることに感謝している。いろいろな方々のお話を伺うことで、今の自分にできることを探しながら周りの人にも伝えたいと思っている。
- ・共生社会の実現に向け、障害児教育側の努力には頭が下がる。それに対して、地域はどうあればいいのか、そのためにはどうすればいいのか、今悩んでいる。
- ・教育と福祉の小さい枠で考えていたように感じる。反省することしきりである。想像以上に由利本荘・にかほ地域の関係機関が連携していることがうれしく思う。
- ・招待者を交えての意見交換は良かったと感じた。今まであまり関わりのなかった方への知ってもらえる良い機会だったのではないかと（障害のこと、より支援学校のこと）と思う。その方々の意見を聞いたのは良かった。